

谷中部研究だより

河北町立谷地中部小学校

R 6 . 7 . 2 6

N O . 2

～仲間と関わりながら、学び方を身に付ける子どもを育てる～

授業研から学び、日々前進

今回の授業では、谷地中部小学校初の『個人総合～個人推し活～』を提案いただきました。事後研究会では、子どもたちが自分の課題に没頭する姿や友達の自然な関わり合いをする姿を土台に、これからの個人総合の方向性も話題になりました。（どうもありがとうございます！）この機会に得た考えや思いをこれからの授業に活かし、みんなでステップアップしていきましょう！

<4年総合的な学習の時間～個人推し活～>

【話し合いから】

視点1：課題を自分のものとして受け止め、自分で自分の学び方をさがすための工夫

・自分が選んだ課題という強み

○学習意欲が高い。没頭して取り組む児童が多く見られた。

●自分のめあてやゴールの姿が明確ではない児童がいた。

→**明確**になればなるほど、子どもたち自身が達成感を感じ、次への意欲が高まるのでは

→後述の『何のために』とのコネクトが十分あれば、子どもたちは必然的に**明確**さを求めていくのかな

視点2：課題解決のために、対話的・協働的に学ぶための工夫

・プロフェッショナルとの交流の機会

○地域ボランティアとして子どもたちの活動を支えていただくことで、活動の幅が広がり、深めたいと思う意識も高まった。

☆本校で個人総合を継続していく上で、前年度のデータ（課題の持たせ方に係る資料や子どもたちの振り返りのデータ）など残しておくことが必要。

視点3：自分や友達の良さや成長を実感できるようにするための工夫

・振り返りの意味を子どもたちがしっかり捉えているか

○自分の活動を素直に振り返ることができた。

●次時のめあてにつながる振り返りを書く上で、教科横断をより意識して**言葉を選んで**書けるように（cf；算数的用語を積極的に用いて、文章化する）

【ご指導】

□小林 福太郎 指導主事（県教育センター）

◆個人総合の強みは**学びの楽しさ・学習意欲**

◆**生きる**こと自体が**探究の積み重ね**

◆学びの**自覚化**（**言語化**する）

<みなさんと共有しておきたいこと> 指導主事の先生とお話したことの中から

個人総合とキャリア教育とのタイアップ

日々の授業でも、目的意識や相手意識がはっきりすることは、学習に取り組む意欲を高め、学習することの価値を実感することにつながっていると感じます。総合（個人総合）においても『何のために』を意識して活動できると、より充実した時間になるのではと思います。高学年の個人総合で、自分の将来とつなげて、個人総合の学習を組み立てていけたらと考えているところです。中学年との系統性も意識したいと思っています。研究を進める中でお気づきのことがありましたら、すぐ共有していきたいです。

今年度最後の全体研 11月20日（水） 小林宏己 早稲田大学名誉教授よりご指導
秋山 和先生（生活） 志田 生先生（総合） よろしくおねがいいたします！！

